

高原半島は中世史研究の宝庫であるにもかかわらず、地方史研究をどのように継承していくかが今後の大きな課題となつています。

有家史談会が担っている「南島原市コレジヨ市民文化講座」は、今年は二百回を迎えますが、高原半島の歴史を学ぶために広く市民に開かれた歴史講座となつています。

有家史談会の先輩諸氏によつて培われてきた誇りある伝統を守り次の世代に継承していきたいと心を新たにしているところです。

●諫早史談会

諫早史談会一年の回顧
平成二十八年

◎四月十二日(火)・役員会
・平成二十八年に向けて計画・会見監査

◎四月十六日(土)・定期総会

総会を予定しておりましたが、熊本地震により、諸事情もあり会を中止いたしました。

◎五月二十一日(土)・定期総会

・平成二十七年事業会計監査報告
・平成二十八年事業計画案・予算案
・総会終了後 歴史講座

諫早一揆の史料担当 光富博氏
◎六月十八日(土)

・会誌四十七号発刊配布・会誌配布後、歴史講座 担当 大島大輔氏

諫早航空機乗員養成所新資料紹介
◎七月十日(日)・若杉春后翁を偲ぶ会

・高城神社 若杉霊神前にて参拝参拝
後若杉墓地清掃
◎九月二十四日(土)

・現地探訪 担当 秀島貞康氏・金泉寺
・多良岳神社探訪
◎十月八日(土)・歴史講座

・飯盛地区の「月の港」発掘調査に見られる月の港について
埋蔵文化財センター 松元一浩氏
◎十一月十九日(土)

・歴史講座担当 鈴木勇次氏
諫早のエビス
◎十二月十日(土)

・歴史講座担当 織田武人氏
諫早の歴史研究課題について
忘年会 於 観光ホテル道具屋
平成二十九年

◎一月二十一日(土)

・歴史講座担当 川内知子氏
諫早の年中行事について
◎二月二十五日(土)

・歴史講座担当 秀島貞康氏
諫早の条理遺構について
◎三月十八日(土)

・現地探訪 担当 秀島貞康氏
太良町・小長井町の文化財(古墳城跡等)の探訪

◇諫早の歴史を歩く会
長崎街道 五回
俵坂(長崎と佐賀境)より佐賀市内を五回に分けて歩く

◇諫早古文書研究会 於 諫早美術歴史館
五月より毎月第二・四金曜日

●雲仙市瑞穂町史談会

平成二十八年度は、五月に定期総会を開催して事業計画を決定し、古墳や城跡等の巡回、研究発表会・講演会等への参加、機関誌みずほ史談第二十号の発刊などを行った。

参加した研究発表・講演会等は、次の通りである。

○県地方史研究会の研究発表会
・六月二十六日総会、研究発表会
「雪のサンタ・マリア」(講師 徳山光氏)、「鷗外史伝と長崎」(講師 新名規明氏)

・十一月十三日 研究発表会大村大会
「街道と海道―近代を運んだ長崎街道―」(講師 稲富裕和氏)

史跡巡り(本陣跡、高札場跡、駅馬跡、脇本陣跡等)
○雲仙市の歴史を学ぶ会の活動
・五月十九日「高原藩の村支配と番人の役割について」(講師 奥野勝氏)

・九月二十二日「雲仙市吾妻町出身の女流画家、栗原玉葉と美人画の世界」(講師 五味俊晶氏)

・十月十六日「歴史散策バスツアー」(原山ドルメン、南串山展示館、小浜歴史資料館) (講師 茂和夫氏)

・三月十八日「雲仙おやまの情報館歴史講演会」(雲仙温泉における明治期の歴史資料の特殊性とその活用) (講師 岡山俊徳氏) (福岡女子大学)

また、瑞穂中学校第一学年の郷土学習及び市民講座「瑞穂の歴史を巡る、散歩道」では、史談会会員が講師を務めた。

生徒達は事前に現地を見て回り、かつ、古墳、城跡の資料を調べておくなど考古学への熱意を感じた。

市民講座では、一日目は岩戸神社と役小角の石像、二日目は高田城跡、柿ノ本古墳、岡城跡を巡回し、最後に公民館に展示されている出土品を見学、熱心な歴史講座となった。

●大村史談会

平成二十八年度
◎監査 ◎総会(四月九日)

◎例会(研究発表 毎月第二土曜日) 八回 参加者二百十六名
四月・『新編大村市史』第四卷「近代編」刊行とその見所と新視点

六月・諸国巡見使と大村藩への派遣
七月・大村市内の石造祠
八月・新式郵便制度発足時の状況について

九月・近代女性の誕生・石井筆子
十二月・南蛮貿易港・横瀬浦と長崎の開港事情再考

一月・外海の潜伏キリシタンとその実体
三月・大村純忠と長崎

◎史跡探訪
五月二十一日「松浦党の古城跡を訪ねて」

◎旧大村藩領地方史研究会
十月二日・彼杵地区
「波佐見焼と中国陶磁」中野雄二氏

「東彼杵町でみる千部塔・万部塔についての考察」宮川弘氏